

平成 26 年 6 月 2 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520227

研究課題名(和文) 広島的女性作家・岡田(永代)美知代に関する総合的研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of Michiyo NAGAYO (formerly OKADA), a Female Writer from Hiroshima Prefecture

研究代表者

有元 伸子 (ARIMOTO, Nobuko)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：50202768

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円、(間接経費) 1,080,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、広島県上下町出身の女性作家・岡田(永代)美知代(1885-1968)について、田山花袋の「蒲団」のモデルとしてのフィルターを排して、一人の女性作家として総合的に評価し直すことである。上下歴史文化資料館と協力しつつ、文献調査やインタビュー実施によって詳細な著作リストや年譜を作成し、既知の2倍以上の作品を発掘した。生前未発表原稿の翻刻紹介を行なうとともに、残された作品や書簡を解析し、花袋との関係や地域性・労働・少女小説といった観点から、美知代の文学の特質を解明した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to comprehensively reevaluate Michiyo NAGAYO (formerly OKADA) (1885-1968), a female writer from Joge Town, Hiroshima Prefecture, not through the filter of the model for Katai TAYAMA's novel "Futon" but as an independent female writer. By cooperating with History and Culture Center of Joge Town, detailed production list and chronological record were prepared through bibliographic surveys and interviews, and more than twice as many as the already-known works were discovered. Together with the reprinting of the works not published during her lifetime, the works and letters she left behind were analyzed, and the characteristics of Michiyo's literatures were clarified from the viewpoint of the relationship with Katai as well as of locality, labor and story for young girls.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：岡田(永代)美知代 田山花袋 少女小説 広島文学

1. 研究開始当初の背景

1885 (明治 18) 年、広島県甲奴郡上下町 (現・府中市上下町) の豪家に生れた岡田美知代は、神戸女学院を中退して、田山花袋の弟子として上京、津田英学塾に通学しつつ作品を執筆。そのさなか同志社の学生・永代静雄との交際が発覚して、上下町に帰省。明治 40 年、花袋が自身と美知代・静雄をモデルにして「蒲団」を発表。美知代はゴシップの渦中に置かれることとなった。

美知代は、「蒲団」事件の後も、永代美知代 の名で、『ホトトギス』『スバル』などに短篇小说を掲載し、『文章世界』の「現代文士録」にも数少ない女性作家として名前があがっている。大正期には、『少女世界』『ニコニコ』などに少女小説を数多く書き、単著も刊行している。花にまつわる古今東西の挿話を収集した『花ものがたり』(大正 6 年)、ストウ夫人の「アンクルトムズ・ケビン」の完訳としての本邦初訳『奴隷トム』(大正 12 年) も美知代の作である。

永代と離婚後、大正 15 年に『主婦の友』派遣記者として渡米、太平洋戦争勃発直前の昭和 16 年に帰国して、昭和 43 年に没するまで広島県北の庄原市に在住した。

岡田(永代)美知代は、田山花袋の小説「蒲団」の女主人公・横山芳子、「縁」の敏子のモデルとして強大なフィルターのもとで扱われ、小説家・翻訳家・雑誌記者としての彼女自身に言及されることは極めて少ない。詳細な年譜も著作リストも存在しない。

『『蒲団』をめぐる書簡集 - 田山花袋記念館研究叢書第 2 巻』(館林市、1993 年) の刊行により、「蒲団」前後の時期の美知代についてはかなり明らかになってきたものの、各種文学事典等でも、美知代が少女小説を量産していた記述はない。また、大正期以降の美知代については、伝記的にも不明な部分が多い。わずかにアメリカから帰国後の庄原時代に関して、美知代に英語を教わった原博己氏の手記があるのみである(「岡田美知代の素顔 - 田山花袋「蒲団」のモデル」『梶葉』、1998 年 7 月)。作品研究に関して、先行研究はごく少ない。

しかし、岡田美知代研究に関する気運は高まってきている。現在刊行中の『新編 日本女性文学全集』(菅柿堂) の近刊第 3 巻(吉川豊子氏編集)には、美知代の「ある女の手紙」「一銭銅貨」が収録予定であり、一般読者が美知代作品に触れる機会の増加が期待される。また、美知代の生家は上下町が取得して改修し、2003 年に上下歴史文化資料館として開館。未発表原稿などの美知代に関する資料を収集・展示している。

2. 研究の目的

本研究は、広島県出身の女性作家・岡田(永代)美知代(1885(明治 18)年~1968(昭和 43)年)について、著作リストや年譜などの基礎的データを整備した上で、田山花袋の「蒲団」のモデルとしてのフィルターを排して、一人の女性作家として総合的に評価し直すことを目的とする。

(a)花袋「蒲団」のフィルターを排し、岡田(永代)美知代自身として総合的に評価する。

本研究は、長年にわたり、田山花袋「蒲団」のモデルというフィルターを通して眺められてきた岡田(永代)美知代を、一人の女性作家として評価し直す点に特色がある。例えば、「蒲団」事件についても、従来の研究のように花袋の側からではなく、美知代の作品や評伝に関する資料を探ることにより、テクスチュアル・ハラズメントを受けた美知代の側から把握し直していく。

(b)女性職業作家成立の過程を検討する先行研究にリンクする。

日露戦後期の明治 40 年前後は、ホモソーシャルな読者共同体の形成を背景として、文学が男性ジェンダー化していく時期であったとされる(飯田祐子『彼らの物語』名古屋大学出版会)。こうした時期に、女性がいかに作品を書き、作家として身を立てたかの検討は、1990 年ごろから、『青鞥』や『女子文壇』などのメディア研究として盛んに行われ、成果をあげている。同時に、各作家を通時的に検討していく必要もあろう。

こうした観点から、富山出身の小寺(尾島)菊子の研究を金子幸代が、福島出身の水野仙子の研究に根岸泰子取り組んでいる。岡田美知代は、小寺菊子や水野仙子と同時期に『女子文壇』に投稿しており、こうした研究とリンクさせることにより、女性職業作家成立の過程の解明に寄与するものである。

(c)広島県出身の女性作家研究の礎とする。

美知代には、広島(主として備後地区)を舞台とした作品や広島方言を用いたものが数作ある。作品検討や、府中市上下歴史文化資料館に保存されている資料の解読、上下町や庄原市の関係者へのインタビューを通じて、林芙美子や大田洋子などの一部作家研究を除き手薄であった広島的女性文学として、岡田美知代を位置づけていく。

(d)美知代作品を、ジェンダー/セクシュアリティ研究や少女研究・翻訳研究にリンクする。

美知代の書く作品のテーマは多岐に富み、ジェンダー/セクシュアリティの観点から読解できる。また、美知代が書いた少年少女

小説や翻訳は、ほとんど存在が知られておらず、近年とみに研究が盛んである少女研究・翻訳研究とリンクすることが可能である。

3. 研究の方法

著作リストを作成し、作品を収集・解説・翻刻紹介して、評価を行う。

「蒲団」のモデルというフィルターを排して、一人の女性作家として岡田（永代）美知代を正当に評価し、あるいは同時代の文化的事象の中に位置づけるために、まずは可能な限り正確な著作リストと年譜を作成・整備し、それを基に、作品や伝記的事項の検討を進めることが必要である。

美知代自身が自作の一部の切り抜きを残しており、それが上下歴史文化資料館に保存されているものの、書誌情報が不明なものが多い。それらの出典を明らかにしたうえで、各地の図書館等において、美知代作品が掲載されている可能性のある雑誌・新聞・書籍にあたり、著作リストを作成する。

また、美知代の生前未発表原稿が、上下歴史文化資料館や田山花袋記念文学館（群馬県館林市）に残されている。これらの翻刻紹介を行なう。

資料分析やインタビューにより、年譜を作成する。

美知代作品や上下歴史文化資料館（広島県府中市）に所蔵されている資料や、親族・関係者へのインタビューを通じて、「蒲団」事件以降の知られざる美知代の動向を解明する。その上で、広島県出身の一人の女性作家が職業作家となっていく過程と、その後の動向を明らかにし、評価する。

著作・年譜をもとに、総合的に検討する。

田山花袋との関係、広島（芸備地域）という地域性、ジェンダー／セクシュアリティの規範、少女小説や翻訳など、美知代作品と作家としての岡田（永代）美知代に関して、総合的に検討する。

4. 研究成果

本研究は、広島県出身の女性作家・岡田（永代）美知代（1885-1968）について、田山花袋の「蒲団」のモデルとしてのフィルターを排して、一人の女性作家として総合的に評価し直すことを目的とし、著作リストや年譜の作成と、作品の総合的な評価を行うものであった。

美知代の著作の全貌が未解明のため、著作リスト作成を最優先に進めたが、その結果、

これまで100作品弱しか知られていなかった美知代の著作が、200作以上あることが判明した。

- ・ 著書……単著5冊（うち翻訳2冊）
共著1冊
- ・ 雑誌新聞掲載作品……216作
（他に投稿の事実が判明しているもの7作品）
- ・ 生前未発表原稿……11作

作業は府中市上下歴史文化資料館所蔵の著作コピーの書誌事項の確認から始め、大学院生の補助を得て、国立国会図書館、日本近代文学館、日本新聞博物館、大阪府立国際児童文学館等において、新聞・文芸雑誌・少年少女雑誌の索引・目次・本文の調査を行い、これらを整理して著作リストを作成した。このリストは、美知代研究のみならず、明治・大正期の女性作家研究や少女小説研究、さらに田山花袋研究にも寄与する基礎的な資料として活用できるものである。

研究代表者の有元伸子は、花袋の「蒲団」など美知代をモデルとした作品と美知代の書き物との関係を考察して、従来の「蒲団」の成立過程とは異なる見解を示した。美知代と花袋の地域性表象や、美知代の少女小説にみる労働表象についても検討した。

また、生前未発表原稿の一つ「国木田独歩のおのぶさん」の翻刻と解説も刊行した。翻刻に際しては、晩年の美知代と親しかった原博己氏への聞き取りと美知代が在籍していた神戸女学院での調査もを行い、国木田独歩の最初の妻・佐々城信子（有島武郎『或る女』のモデル）が神戸女学院に在籍していたこと等が明らかになった。これも研究上の成果である。また、『中央新聞』に掲載された無署名の連載小説を美知代作だと推定して、紹介・解説を行なった。

研究分担者と共に上下歴史文化資料館を複数回訪問して、美知代の文化的背景と地域性の核心を探るとともに、美知代の著作権継承者である親族の方々や、関連する研究者との交流もはかった。本研究の成果は上下歴史文化資料館の展示等に反映され、開館一〇周年記念講座の担当などを通じて、地域に還元してきた。群馬県館林市の田山花袋記念文学館でも美知代の花袋宛て書簡等の調査を行った。

研究分担者のうち、遠藤伸治は、美知代の作品群と花袋との関係の分析を行った。瀬崎の成果は本報告書に掲載されている。遠藤の成果は他誌に掲載予定であり、本報告書にはその概要が収録されている。

瀬崎圭二は美知代を取り巻く言論状況を調査し、とくに明治40年代に発表された三つの「女流文学」論によって、同時期の文学場と個人の表現をめぐるメカニズムを明らかにした。

今後は、さらに著作リストや年譜の修正を行い、花袋や同時代の女性作家などとの関係を解明し、作品の読解と評価を進めていく。さらに、著作権に留意しながら、作品の公開に取り組み、関係する研究者の研究や一般の方々の享受の便をはかる予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 12 件)

1. 有元 伸子、田山花袋「蒲団」と岡田美知代「恩は恩、怨みは怨み」、群馬県立土屋文明記念文学館 第 84 回企画展図録「文豪 田山花袋 - 近代の小説を模索した日々」、査読無、28-29、2014
2. 有元 伸子、岡田(永代)美知代 研究報告、JSPS 科学研究費報告書(23520227) 広島の女性作家・岡田(永代)美知代に関する総合的研究、査読無、1-9、2014
<http://www.bungaku.pref.gunma.jp/display/topics0233.html>
3. 瀬崎 圭二、明治四〇年代の「女流作家」論と岡田(永代)美知代、JSPS 科学研究費報告書(23520227) 広島の女性作家・岡田(永代)美知代に関する総合的研究、査読無、10-14、2014
<http://www.bungaku.pref.gunma.jp/display/topics0233.html>
4. 遠藤 伸治、共同研究報告、JSPS 科学研究費報告書(23520227) 広島の女性作家・岡田(永代)美知代に関する総合的研究、査読無、15-16、2014
<http://www.bungaku.pref.gunma.jp/display/topics0233.html>
5. 遠藤 伸治、岡田美知代と「蒲団」 自然主義と少女小説、国文学攷、査読有、221号、印刷中、2014年
6. 有元 伸子、永代美知代の少女小説にみる労働、内海文化研究紀要、査読無、42号、1-12、2014
7. 有元 伸子、作者をめぐる攻防 田山花袋「蒲団」と岡田美知代の小説、日本近代文学、査読有、88集、33-48、2013
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009661952>
8. 有元 伸子、資料紹介『中央新聞』掲載の推定・永代美知代作品「老嬢の告白」付 岡田(永代)美知代著作リスト、内海文化研究紀要、査読無、41号、1-23、2013
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00033923>
9. 有元 伸子、地域性をめぐる攻防 岡田(永代)美知代と田山花袋の描くローカリティ、近代文学試論、査読有、50号、23-33、2012
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/0003>

5300

10. 有元 伸子、資料翻刻 永代美知代「国木田独歩のおのぶさん」、内海文化研究紀要、査読無、40号、49-70、2012
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00033045>
11. 有元 伸子、広島の女性作家・岡田(永代)美知代研究(2) 著作の概要、広島大学大学院文学研究科論集、査読無、71、17-32、2011
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00032614>
12. 有元 伸子、広島の女性作家・岡田(永代)美知代研究(1) 研究の現状と課題、内海文化研究紀要、査読無、39号、53-61、2011
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00032776>

[学会発表](計 4 件)

1. 有元 伸子、特集 女性作家の「労働」に関する1910年代の文学表象 岡田美知代を事例に、日本近代文学会北陸支部大会、2013年11月30日、富山県高岡市ホテル磯はなび
2. 有元 伸子、女性作家の「労働」表現 地域からの発信 岡田美知代、富山大学人文学部シンポジウム、2013年11月28日、富山大学人文学部
3. 有元 伸子、岡田美知代とその作品について、上下歴史文化資料館開館十周年記念講座、2013年10月13日、府中市上下歴史文化資料館
4. 有元 伸子、作者をめぐる攻防 田山花袋「蒲団」と岡田美知代の小説、広島大学国語国文学会平成二四年度研究集会、2012年7月8日、広島大学

[その他]

ホームページ等

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00035423>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

有元 伸子 (ARIMOTO Nobuko)
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：50202768

(2) 研究分担者

遠藤 伸治 (ENDO Shinji)
県立広島大学・生命環境学部・教授
研究者番号：40185161

瀬崎 圭二 (SEZAKI Keiji)

広島大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：70413284